



2015 (平成27) 年 7月 31日 (金) 発行

[発行所] 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: eces-manager@ecesj.com HP: http://www.ecesj.com/

[発行者] 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 藤田乾一, 事務局長 小川鶴蔵)

1	はじめに	2
2	応用生態工学会第19回総会開催案内	2
3	第19回郡山大会案内	3
4	次期役員募集・推薦委員会報告	30
5	学会規約細則が改正されました	31
6	会誌の投稿規程が改訂されました	31
7	理事会報告	32
8	行事開催案内	
8-1	応用生態工学会2015年度国際シンポジウム	34
8-2	応用生態工学会札幌セミナー	35
8-3	第14回北信越現地ワークショップ in 富山	36
9	行事開催報告	
9-1	地域勉強会 in 福井の報告	38
9-2	第2回北信越技術研究会の報告	41
10	海外学会派遣報告 (SFS Annual Meeting 2015 参加報告)	43
11	年間行事予定	44
12	事務局より	46

## 1 はじめに

第19回郡山大会の詳細が決まりましたので、ご案内いたします。口頭発表数が、これまでで最も多い49課題になり、ポスター発表も、盛況だった昨年の東京大会の74課題を上回る75課題が予定されています。初めての試みとなる賛助会員による展示があります。また、東日本大震災の復興現場などのエクスカージョンも用意されています。多くの会員のご参加をお待ちしております。

また、今年は役員改選期に当たります。次期役員募集・推薦委員会において推薦のあった役員候補について、委員会からの報告を掲載しています。ご確認ください。

なお、来年は、応用生態工学会の設立20周年目となります。第76回理事会（メール会議、本年5月15～21日）では、**来年（2016年）の第20回大会を応用生態工学会20周年記念大会として開催すること**に決定しました。これから、来年の20周年記念大会の開催に向けた準備が始まります。

## 2 応用生態工学会第19回総会開催案内

応用生態工学会第19回総会を下記のとおり開催いたします。正会員の皆様のご出席をお願いします。

第19回総会は、応用生態工学会第19回郡山大会の3日目に開催します。

日 時：平成27年9月12日（土） 10：30～11：30

場 所：日本大学工学部キャンパス 70号館

福島県郡山市田村町徳定字中川原1

なお、総会の成立には正会員の1/5の出席が必要です。総会に欠席される正会員の方は、別途、学会事務局より送信、送付する委任状及び第10期役員信任投票用紙（電子メールまたはハガキ）に必要事項を記入のうえ、8月24日（月）までに事務局までご返信くださいますよう、お願いいたします。

総会資料は、8月中旬にホームページ上で公開する予定ですので、ご確認ください。

### 3 第19回郡山大会案内

## 応用生態工学会 第19回大会案内 (郡山大会)

2015年(平成27年)9月10日(木)～9月13日(日)

第19回総会・研究発表会・自由集会・公開シンポジウム・エクスカージョン

#### 1. 大会概要

応用生態工学会では、2015年(平成27年)9月10日(木)～9月13日(日)に福島県郡山市にて、第19回大会を開催します。

9月10日(木)～11日(金)に行われる研究発表では、49件の口頭発表、75件のポスター発表が行われます。また、自由集会としては、河川砂防技術基準(調査編)に関する会議も含め、8つの集会在予定されています。

9月12日(土)には、公開シンポジウム「生態系機能を活用した減災/防災/復興」を開催します。招待講演として、米国海洋大気庁(NOAA)のKateryna M. Wolk博士から、米国でのハリケーン・サンディ復興戦略と海岸のレジリエンスについてお話していただくほか、九州大学の島谷幸宏教授より日本でのグリーンインフラストラクチャー(GI)に関する取り組み状況等についてご講演していただきます。このシンポジウムは河川整備基金、みちのく国づくり支援事業の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

エクスカージョンは、9月10日(木)に三春ダム、9月13日(日)には福島県の海岸防災林・防災緑地事業および仙台湾南部海岸での防潮堤・湿地の保全状況の視察を行います。

なお、本大会は、土木学会継続教育(CPD)プログラムに認定されています。

#### 【会場】

○研究発表・総会・公開シンポジウム：日本大学工学部キャンパス 70号館

住所：福島県郡山市田村町徳定字中河原1

電話：024-956-8600(代表)

URL：<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/links/access.html>

○懇親会：日本大学工学部キャンパス 70号館 9階多目的ホール

○エクスカージョン

<Aコース>：三春ダム

<Bコース>：福島県松川浦・仙台湾南部海岸

#### 【大会日程】

##### 9月10日(木)

- |                                     |             |            |
|-------------------------------------|-------------|------------|
| ・エクスカージョンAコース(三春ダム)                 | 9:45        | JR郡山東口 出発  |
|                                     | 13:15       | 日大工学部正門・到着 |
| ・自由集会「応用生態工学ならではの魅力ある啓発・普及コンテンツとは？」 | 09:30～11:30 | 7011 教室    |
| ・自由集会「自然の浄化機能を活かした水質浄化技術」           | 09:30～11:30 | 7012 教室    |
| ・ポスターコアタイム1                         | 12:45～14:15 | ロビー        |
| ・ポスターコアタイム2                         | 14:15～15:45 | ロビー        |
| ・会議「河川砂防技術基準(調査編)をもとにした意見交換会」(傍聴可)  | 16:00～18:00 | 7011 教室    |
| ・自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！」             | 16:00～18:00 | 7012 教室    |
| ・自由集会「未来の自然災害に向けて応用生態工学ができることは何か？」  |             |            |
| 東日本大震災の後にどうする？どうなる？応用生態工学会」         | 16:00～18:00 | 7021 教室    |
| ・自由集会「流域地質と山地河川の生態系」                | 17:30～19:30 | 7013 教室    |

9月11日(金)

- |  |             |                   |
|--|-------------|-------------------|
| ・口頭発表  | 09:30~12:00 | 7011,7012,7013 教室 |
|  | 13:00~15:00 | 7011,7012,7013 教室 |
| ・自由集会「応用生態工学からダム管理を考える」                                  | 15:30~18:00 | 7011 教室           |
| ・自由集会「中小河川における多自然川づくり,課題そして展望<br>ーテキスト刊行に向けた認識の共有を目指してー」 | 15:30~18:00 | 7012 教室           |
| ・懇親会   | 18:30~20:30 | 7階多目的ホール          |

9月12日(土)

- |   |             |         |
|---|-------------|---------|
| ・総会   | 10:30~11:30 | 7014 教室 |
| ・公開シンポジウム「生態系機能を活用した減災防災復興」                     | 13:00~16:30 | 7014 教室 |
| ・エクスカージョン B (松川浦・仙台湾南部海岸コース)                    |             |         |
| 公開シンポジウム 16:30 終了後 17:00 日大工学部から「いわき市湯本温泉」へバス移動 |             |         |

9月13日(日)

- |                              |       |            |
|------------------------------|-------|------------|
| ・エクスカージョン B (松川浦・仙台湾南部海岸コース) | 8:15  | いわき湯本温泉 出発 |
|                              | 15:45 | 仙台空港・着     |
|                              | 16:30 | JR 仙台駅・着   |

\*\*\*\*\*

<参加/発表される皆様へ>

《受付》

- ・9月10日(木)は、9:00 から参加の受付を開始します。時間帯によって、受付は非常に混雑することが予想されます。早めに受付をお済ませください。
- ・9月10日(木)のエクスカージョン B コース (三春ダム) に参加を申し込みされた方には、集合や移動、注意事項等の詳細を改めてお知らせします。
- ・9月11日(金)は、9:00 から参加の受付を開始します。発表者のパワーポイントファイルの受付は8:30 から行います。
- ・9月12日(土)の総会は、10:00 から参加の受付を開始します。
- ・9月12日(土)の公開シンポジウムは、12:30 から参加の受付を開始します。公開シンポジウムのみに参加される方は無料です。
- ・9月12日(土)~9月13日(日)のエクスカージョン B コース (松川浦・仙台湾南部海岸) に参加を申し込みされた方に、集合や移動、注意事項等の詳細を改めてお知らせします。
- ・受付は70号館1階ロビーです。名札をお渡ししますので、会場内では必ず名札を付けてください。
- ・研究発表会参加費は、会員 6,000 円、学生 3,000 円、非会員 10,000 円、費用には講演要旨集の料金が含まれます。大会運営をスムーズに行うため、事前申込および振込にご協力ください。
- ・懇親会参加費は正会員・賛助会員・非会員5,000円、学生3,000円です。参加者人数の把握や当日の運営をスムーズに行うため、事前申込および振込にご協力ください。

《口頭発表される方へ》

- ・口頭発表は全て備え付けのパソコンと液晶プロジェクターで行います。パソコンの持ち込みはできません。OSはWindows 7、プレゼンテーションソフトはPower Point 2013 (Office 2013) です。Mac、古いバージョンのPower Point、あるいはその他のソフトでプレゼンテーションを作成される方は、事前にPower Point 2013 で動作するか確認を行ってください(動作確認用を希望される方は会場係に申し出てください)。また、備え付けのパソコンは、通常のWindows 7日本語版で標準にインストールされているフォントのみが表示できます。
- ・パワーポイントのファイルは、発表番号と発表者の名字の英語表記をファイル名とし(例:A1\_osugi)、発表会場の受付に提出してください。ファイルはウィルスに感染していないことを確認のうえ、USBメモリ、CD-Rで

持参してください (MO, DVD, CD-RW は不可) . 提出期限は以下のとおりです.

9月11日(金)	午前セッション (A, B, C, D, E, F, G)	9:00 まで
	午後セッション (H, I, J)	12:00 まで

- ・発表時間は発表 12 分, 質疑応答 3 分の合計 15 分です. 1 鈴 : 10 分, 2 鈴 : 12 分, 3 鈴 : 14 分 30 秒です. 時間厳守にご協力ください.
- ・パソコンの操作は基本的に会場係が行いますが, 自分で操作される方は会場係にお伝えください.

#### 《ポスター発表される方へ》

- ・ポスター発表の会場は, 70 号館 1F 玄関ホールです. パネルにポスター番号を貼り付けていますので, ご自分の発表番号のパネルにポスターを貼り付けてください.
- ・ポスターは横 90 cm, 縦 180 cm 以内のサイズで作製してください. ただし縦のサイズは床からのパネル高さのため, 見やすい位置に貼り付けられるポスターサイズをお勧めします (A0 判 841mm×1189mm を推奨します).
- ・ポスターの上部に演題・発表者・所属を書いてください. 発表者が複数の場合は, 代表発表者の名前の前に○印を付けてください.
- ・ポスターの掲示期間は 9 月 10 日(木)~11 日(金)15:30 までの期間とし, ポスターは 10 日(木)の 9:00~12:45 の間に持参者自身で掲示してください.
- ・ポスター発表の発表件数が多いため, コアタイムは 2 部制にいたします. 各コアタイムとも 1 時間 30 分です.
- ・コアタイム 1 (発表番号末尾奇数の方) は, 9 月 10 日(木)12:45~14:15, コアタイム 2 (発表番号末尾偶数の方) は, 9 月 10 日(木)14:15~15:45 です. ご自身のコアタイムのスケジュールをご確認され, 自分の該当するコアタイムでは, ポスターの前で発表を行ってください
- ・ポスターの撤収は 9 月 11 日(金)15:30 から 18:00 の間までに持参者自身で撤収してください. 掲示時間を過ぎてもポスターを貼り付けたままの場合は, 実行委員がポスターを取り外します. 取り外したポスターは, 大会期間中は実行委員会で保管いたしますが, 大会後は処分します.
- ・ポスターの事前送付は, 事故防止のため一切受け付けません. 発表当日に各自で持参してください. ポスターを貼り付ける押しピン, セロテープ等は会場に準備しています. 指示棒などは各自持参してください.
- ・PC などの電子機器でデモンストレーションを行っても構いませんが, 電源はありません. また大きな音の鳴るデモンストレーションなど, 周囲の発表者への迷惑となる行為はご遠慮ください.

#### 《発表賞》

- ・申請のあった若手研究者, 現場技術者または行政担当者の発表から優秀発表賞を選定します. 研究の内容, プレゼンテーション技術などを基準に審査します. 口頭/ポスターおよび研究/事例の各類別 (全 4 類別) について秀でた発表に優秀発表賞 (各若干名) を, 最も秀でた口頭発表およびポスター発表に最優秀発表賞 (各 1 名) を授与します.
- ・12 日 (土) の総会 (10:30~11:30) に続いて, 優秀発表賞の表彰を行います.

## 2. 公開シンポジウム

＜このシンポジウムは、公益財団法人河川財団の河川整備基金の助成、一般社団法人東北地域づくり協会「みちのく国づくり支援事業」として支援を受けています。＞

### 【テーマ】

「生態系機能を活用した減災/防災/復興」

### 【企画のねらい】

国土強靱化基本法に掲げられている「地域の特性に応じて、自然との共生及び環境との調和に配慮」する方針は、応用生態工学会が目指す「人と生物の共存」、「生物多様性の保全」、「健全な生態系の持続」を海岸や河川において実現していくことと一致しています。特に、東日本大震災被災地等で進められている復興・防災・減災事業から有効な教訓を抽出することが重要であると考えられます。

復興・防災・減災事業では、地域の自然環境・生態系ネットワークを適正に保全・管理する必要がある、それを実現する手段として、近年、多様な生態系を重要な社会基盤とみなすグリーンインフラストラクチャー(GI)の考え方に注目が集まっています。しかし、GIに関しては、防災・減災機能に関する技術的評価や維持管理、ガバナンスのあり方も含めて、課題や有効性について議論を深める必要があります。そこで、本シンポジウムでは、第一線の研究者を一堂に集め、最新の技術的知見や研究課題を共有し、土木技術と生態学の融合をめざす応用生態工学との接点を明らかにするとともに、課題解決に向けた方向性について議論を行い、今後の研究の進展と実事業への適用の出発点となることを目指します。

### 【公開シンポジウム プログラム】(同時通訳があります)

13:00 趣旨説明 風間 聡 教授 (東北大学大学院工学研究科)

13:10 招待講演 (同時通訳あり)

講演1 Kateryna M. Wowk 博士 米国海洋大気庁 (NOAA) 主席エコノミスト室上席社会科学官

講演2 島谷 幸宏 教授 (九州大学大学院工学研究院)

15:30 パネルディスカッション

コーディネーター：風間 聡 教授 (東北大学大学院工学研究科)

パネリスト：Kateryna M. Wowk 博士

島谷 幸宏 教授 (九州大学大学院工学研究院)

古田 尚也 (国際自然保護連合 シニア・プロジェクト・オフィサー)

諏訪 義雄 (国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部海岸研究室長)

16:45 終了予定

## 3. 自由集会 等

7つの自由集会が開催されます。集会には所属学会によらず参加でき、事前申込は不要です。また、「河川砂防技術基準(調査編)をもとにした意見交換会」(会議)が開催されます。

### A. 「応用生態工学ならではの魅力ある啓発・普及コンテンツとは？」

- ・企画：田代 喬 (名古屋大学)
- ・日時：9月10日(木)09:30~11:30 7011教室
- ・内容：昨今、応用生態工学に関連する分野では、河川生態学、環境水理学など、多くの専門書が刊行されている。しかしながら、いずれも刊行部数は少数に限られ、重版されることは極めて少ないのが現状である。論文の多くが電子化され、洋書についてはE-Bookなどの発行形態が増えつつあり、さまざまなメディアファイルを関連付

けるなど、幅広い展開を見せているのに対し、日本語で書かれる専門書の多くは、冊子のみの発行に留まっている感がある。

学会の魅力を高める方法には、年次大会、機関誌の充実に加え、昨今では、IT やビジュアル表現などをフルに活用した関連情報の収集と発信であるとの指摘がある。企画者らは、IT 技術やビジュアル表現を駆使して作成された、視覚メディアによる啓発・普及コンテンツ、ならびに、これらを通じた研究成果のインタプリテーションと情報発信に興味と可能性を感じ、この集会を企画した。

本自由集会では、映像資料などのビジュアル表現を通じた生態的展示の先駆的な事例紹介、現状の学会 HP の来訪状況に関するアクセス解析などを踏まえ、応用生態工学ならではの魅力的な啓発・普及コンテンツを探る議論を行いたい。

- ・趣旨説明 (田代 喬 (名古屋大学))
- ・話題提供1：河川生態のとらえにくさと視覚メディアの役割 (吉富友恭 (東京学芸大学))
- ・話題提供2：河川教育の現場における動画の活用 (真田誠至 (アクア・トトぎふ))
- ・話題提供3：水生生物のミクロな形態、ダイナミックな生態を伝える (渡辺友美 (早稲田大学))

<総合討論>

学会 HP 来訪状況のアクセス解析 (沖津二郎 (応用地質))

オーガナイザー 真田誠至 (アクア・トトぎふ) ・田代 喬 (名古屋大学)

## B. 「自然の浄化機能を活かした水質浄化技術」

- ・企画：中野和典 (日本大学工学部)
- ・日時：9月10日(木)09:30~11:30 7012教室
- ・内容：水や大気を清浄化する自然の浄化作用は、重要な生態系のサービスのひとつである。自然の作用は持続的であり、そのような自然の機能をうまく活用することが持続的な低炭素社会を実現するために不可欠であるといえる。人工湿地は、自然の湿地とは桁違いの水質浄化能力を付加することに成功した半自然的な污水处理システムであり、その技術革新により人工的な污水处理を半自然的な人工湿地に代替することが現実的になってきている。本自由集会では、わが国で実施している人工湿地の実証試験等の紹介を通して、自然の浄化機能を活かした水質浄化技術に関する最先端の知見を紹介する。

## C. 会議「河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会」（傍聴可）

- ・意見交換会メンバー
 

国土技術政策総合研究所	： 福濱水環境研究官, 中村圭吾主任研究官
土木研究所	： 萱場祐一 上席研究員
土木学会環境水理部会	： 芝浦工業大学 宮本仁志 教授, 鳥取大学 矢島啓准教授, 山口大学 赤松良久 准教授
応用生態工学会	： 徳島大学 河口洋一 准教授, 名古屋大学 田代喬 准教授 東邦大学 西廣淳 准教授, 水源地環境センター中村敏一
- ・日時：9月10日(木)16:00~18:00 7011教室
- ・主旨：国土交通省においては、平成24年6月に河川砂防技術基準（調査編）（以下、河砂基準）が改定されました。その総論には「新たな調査方法等の採用に当たっては、国土技術政策総合研究所等による関連情報の収集・調査等によるほか、学識者や関係者等の意見を聞くことにより最新の調査方法、技術的知見、課題等を把握する作業を定期的に行い、調査編の内容を見直すこと」としており、産官学の連携を通じた河川管理技術の向上が期待されています。

このたび、河砂基準の環境分野の記載が、最新の学術的・技術的水準および現場実務での活用実態・実績を踏まえたうえで、必要かつ十分なレベルで適宜改定されるよう学識者や関係者等と意見交換を行うことを目的として第3回意見交換会が開催されます。

※傍聴について：傍聴希望者は傍聴可能です。ただし、傍聴者のご発言はできません。

## D. 「小さな自然再生が中小河川を救う！Ⅳ」

- ・企画：林博徳 (九州大), 三橋弘宗 (兵庫県立大), 原田守啓 (岐阜大)

- ・日時：9月10日(木)16:00~18:00 7012教室
- ・内容：自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！」は2012年より毎年開催され、各地の事例紹介や普及にむけた課題等について議論・整理を行ってきた。そして、これまでの成果は関係各位の尽力によって取りまとめられ、今年3月には小さな自然再生の事例集を発刊した。本事例集は、出来上がるまでの過程で、単なる事例の整理だけでなく、小さな自然再生の定義や進め方、普及へ向けた課題などについて様々な関係者間で議論を行い、非常に内容の濃いものにまとめられたと考えている。本自由集会では、この事例集の内容について紹介するとともに、これまで紹介されていない各地の事例発表を行い、今後さらに小さな自然再生の取り組みの裾野を広げていきたいと考えている。

#### E. 「未来の自然災害に向けて応用生態工学ができることは何か？：東日本大震災の後にどうする？どうなる？応用生態工学会」

- ・企画：久米学（国立遺伝研）・森誠一（岐阜経済大）・中村太士（北海道大）・西廣淳（東邦大学）
- ・日時：9月10日(木)16:00~18:00 7021教室
- ・内容：東日本大震災から5年目を迎えて今なお復興は道半ばである。その過程において、環境アセスメントがなされないままに、復興事業は行われてきた。また、応用生態工学会に関しては会員各人の活動（研究を含む）に留まり、学会としての対応は後手にまわった感否めない。その一方で、近い将来に巨大地震が起こるとする予測が数多く出されている。さらに近年、局地的な集中豪雨に伴う土砂災害や洪水被害などの自然災害が立て続けに発生している。これらのような自然災害発生時は、応用生態工学会の存在意義が問われる場面の1つではなかろうか。それ故に、東日本大震災からの復興と同時に、近い将来起こるとされる巨大地震をはじめとする自然災害に備えて、“事前に何をしておくべきか”そして“事後に何をすべきか”、を整理しておく必要がある。そこで本集会では、東日本大震災の教訓を踏まえて、自然災害発生の事前・事後における応用生態工学会ができる対応について、幹事会における災害対応特命班での検討内容も含め議論したい。

<趣旨説明>：森誠一（岐阜経済大）

<事例報告>

1. 稲葉修（南相馬市博物館）：震災・原発事故後の生物、これから  
一被災地域の自然と文化を守るために
2. 三浦一彦（大槌町役場）：復興事業の進展により見えてきた新しい課題
3. 西廣淳（東邦大学）：学会における災害対応の考え方とその手順

<総合討論>

司会：森誠一（岐阜経済大）

パネリスト：三浦一彦（大槌町役場）・稲葉修（南相馬市博物館）・樋村正雄（いであ）・久米学（国立遺伝研）・中村太士（北海道大）・西廣淳（東邦大学）

#### F. 「流域地質と山地河川の生態系」

- ・企画：田代喬（名古屋大学）・永山滋也（土木研究所）・一柳英隆（熊本大学）・皆川朋子（熊本大学）
- ・日時：9月10日(木)17:30~19:30 7013教室
- ・内容：流域における表層地質は、斜面崩壊や土石流の発生機構を支配し、河川へ流出する水の量や化学的性質をも規定するとされている。そのため、生態系にも影響を及ぼすとされているが、現在のところ、その因果関係を陽的に明らかにした研究は国内外においてほとんど見当たらない。

企画者らは近年、九州、あるいは、東海のいくつかの山地河川を対象として、流域地質に起因して成立する生態系の各種過程を記載すべく、調査研究を継続してきている。本自由集会では、生態系のひとつの支配要因としての流域地質を理解するため、日本の地史、河川地形に関する背景的情報の整理を行ったうえで、山地河川の生態系の諸過程において流域地質の影響が顕著に表れている事例を紹介する。

総合討議では、流域地質と河川生態系の関係について、どこまで分かったか、どこに課題が残されているかを中心に議論を進めたい。なお、我が国の中小河川の多くは山地河川に位置づけられていることから、この種の整理が河川の維持管理に新たな視点を提供できるものと考えている。

<趣旨説明> 田代 喬（名古屋大学）

- ・イントロ：日本地史の紹介, 河川地形の分類 (永山滋也 (土木研究所))
- ・話題提供1：地質-地形-魚類の関係 (永山滋也 (土木研究所))
- ・話題提供2：石礫の性状と底生動物群集 (田代 喬 (名古屋大学))
- ・話題提供3：地質の違う溪流での生物の生き方の違い：サワガニとカワネズミの事 (一柳英隆 (熊本大学))

<総合討論> 「流域地質はいかに生態系を規定し得るか? : 中小河川を巡る維持管理の視点含め」  
 オーガナイザー 皆川朋子 (熊本大学) ・ 田代 喬 (名古屋大学)  
 コメンテーター 竹門康弘 (京都大学)

#### G. 「応用生態工学からダム管理を考える」

- ・企画：谷田一三 (大阪市立自然史博物館) ・ 一柳英隆 (水源地環境センター)
- ・日時：9月11日(金) 15:30~18:00 7011 教室
- ・内容：ダムでは、治水や利水などの目的のために様々な操作が行われる。放流量コントロール (それはダム湖内の水位にも影響する) に代表される操作は、ダム湖や下流の生態系に影響を与えると考えられる。この自由集会では、ダムの操作と生態系の関係を紹介し、操作自体をどのように生態系保全に活かすのか、操作上の制約の中でどのようにより良い生態系に導いていくかについて議論したい。

<話題提供>

- ・「ダム湖の外来魚防除とダム管理の水位操作」 (大杉奉功 水源地環境センター)
- ・「水位操作とエコトーンに発達する植生の生態的機能・外来種管理の限界」 (浅見和弘 応用地質株式会社)
- ・「ダム湖エコトーンの生物多様性と地形・水位管理」 (関島恒夫 新潟大学)
- ・「フラッシュ放流が河川・河畔域に与える影響評価」 (根岸淳二郎 北海道大学)
- ・「フラッシュ放流への期待と制約」 (天野邦彦 水源地環境センター)

コメント：現場から (山内尚也 三春ダム管理所)

ディスカッション (コーディネーター：谷田一三 大阪市立自然史博物館)

#### H. 「中小河川における多自然川づくり, 課題そして展望

—テキスト刊行に向けた認識の共有を目指して—

- ・企画：萱場祐一 (土木研) ・ 原田守啓 (岐阜大)
- ・日時：9月11日(金) 15:30~18:00 7012 教室
- ・内容：テキスト刊行委員会では「河道内氾濫原の保全・再生」に続く号として、中小河川づくりを实践する上での基本的な知識と技術を網羅したテキストの執筆を企画しています。

ご存知のように、中小河川の川づくりは、平成22年に「中小河川に関する河道計画の技術基準」が通知、平成23年にこの解説本であるポイントブックⅢが発刊され、具体的な川づくりの方向性と方法が示されました。しかし、ポイントブックⅢは中流域を対象としており上流・下流域に関する知見に乏しいこと、その後の中小河川研究において幾つかの新しい知見が見出されたこと、そして、中小河川における多自然川づくりに関する基礎的な知識や技術を網羅した教科書が見当たらないことから、関連する知見と技術の体系化を図り、会員の皆さんと共有できるテキストの発刊を企画することとしました。

本集会では、中流域における最新の知見に加えて、中小河川の流域管理、山間地河道の川づくりに関する知見について話題提供して頂き、中小河川の多自然川づくりに関するこれからの方向性、技術的な課題や学術的な知見を整理し、川づくりに対する課題と展望について認識の共有化を図ります。また、本学会のテキストとして取りまとめる方向性について議論し、テキスト発刊の出発点にしたいと考えています。

中小河川に関わる多自然川づくりの技術論を体系的に議論する絶好の機会です。是非ご参加ください。

#### 4. 賛助会員展示コーナー

賛助会員によるポスター展示のほか、開発機材・技術等の展示を行います。

場所：70号館ロビー

期間：9月10日(木)~11日(金)

## 5. エクスカーション

### ① Aコース (三春ダム)

#### 【企画のねらい】

三春ダムは郡山市に隣接した三春町に位置し、その洪水調節機能によりダム下流の災害リスク低減に大きく寄与するとともに、貯水池水位変動帯に関する様々な研究やオオクチバス・ブルーギルの防除の取り組みが行われている国の多目的ダムである。三春ダム貯水池における生態系研究のフィールドを訪ね、その取り組みについて学ぶ。

#### 【日程・コース】

9月10日(木)	9:45	JR東北本線「郡山駅」東口広場 出発
	10:15	三春ダム着、堤体、ダム下流還元土砂置場見学 蛇石川前貯水池下流(水位変動域のヤナギ林) 蛇石川前貯水池(ブルーギル産卵床の干し上げ試験箇所)
	12:15	田園生活観(昼食)
	12:45	三春ダム発
	13:15	日本大学工学部正門着(大会会場) 解散

※ 定員20名先着順とします。

※ 参加申し込みをされた方には、集合や移動、注意事項等の詳細を改めてお知らせします。

### ② Bコース (松川浦・仙台湾南部海岸)

#### 【企画のねらい】

福島県沿岸および仙台湾南部海岸は、東日本大震災による地盤沈下と津波により海岸域の生態系に大きな変化が生じた。現在、防潮堤のほか海岸防災林・防災緑地などの復旧事業が急ピッチで進められる中、生物多様性保全のために震災前の貴重な干潟の復元、新たな干潟の創出などの生態系復元の取り組みが行われている。福島県の相馬市松川浦、新地町では海岸防災林・防災緑地の施工現場を訪れる。また宮城県仙台南部海岸では防潮堤工事現場、名取川河口の井土浦干潟周辺を訪れ、それぞれの震災復興、干潟、湿地の震災後の現状と生態系復元の取り組みについて学ぶ。

#### 【日程・コース】

9月12日(土)	17:00	公開シンポジウム終了後、日大工学部からバスで移動
	18:30	いわき市湯本温泉(宿泊)
	18:30	茶話会(松川浦の生態系特性と生態系復元の取り組み) 講師：福島大学教授 黒沢高秀 (井土浦の干潟生態系の復元と生態系サービス) 講師：東北大学大学院教授 占部城太郎
9月13日(日)	8:15	いわき湯本温泉 出発(常磐道経由)
	10:00-10:45	相馬市松川浦(海岸防潮林造成事業を見学)
	11:15-12:00	新地町(造成中の埴浜防災緑地を見学)
	12:35-13:15	昼食(亘理町)
	13:45-14:30	仙台湾南部海岸の防潮堤防工事
	14:30-15:15	井土浦干潟(名取川河口左岸)
	15:45	「仙台空港」着
	16:30	「仙台駅」東口バスプール解散

※ 定員50名先着順とします。

※ 参加申し込みをされた方には、集合や移動、注意事項等の詳細を改めてお知らせします。

## 6. 懇親会

懇親会は、第2日目(9月11日(金))の口頭発表、自由集会の後、18:30より同じ棟の70号館9階の多目的

ホールで行います。また毎回好評の「全国からうまいものを持ち寄る普及・連携委員会」コーナーも予定しておりますので、ぜひご参加ください。

**【日時】**

平成27年9月11日(金) 18:30から

**【会場】**

日本大学工学部キャンパス 70号館9階多目的ホール

**7. 参加申し込み方法**

**【申し込み先】**

応用生態工学会ホームページの「参加申込フォーム」もしくはチラシよりお申込みください。申込期限は8月25日(火)、参加費のお振り込み期限は9月1日(火)です。

FAX・E-mailによるお申込は、『参加申込書』にご記入の上、下記までお申込ください。

FAX宛先：03-5216-8520 E-mail：koriyama\_19th@ecesj.com

参加申込フォーム：[http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual\\_conEntry](http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_conEntry)

**【参加費】**

**〔1〕研究発表会**

会員：6,000円、非会員：10,000円、学生(会員・非会員)：3,000円。

※参加費には講演要旨集が含まれております。講演要旨集のみ希望の方は、1,500円で販売しております。

※大学周辺には飲食店はなく、コンビニエンスストアのみです。平日は学食が営業していますが、土曜日は営業していませんので、別途1,000円でお弁当が用意できます。事前にお申し込みください。

**〔2〕エクスカージョン**

**① Aコース(三春ダム)**

正会員・賛助会員：2,000円、非会員：3,000円、学生(学生会員・非会員)：1,500円  
(いずれも昼食代1,300円を含む)

**② Bコース(松川浦・仙台湾南部海岸)**

正会員・賛助会員：4,500円、非会員：6,500円、学生(学生会員・非会員)：4,500円  
(いずれも昼食代1,000円を含む)

※別途宿泊費12,000円(1泊2食付)を各自でお支払いください。

**〔3〕懇親会**

正会員・賛助会員・非会員：5,000円、学生(会員・非会員)：3,000円

※懇親会への参加は当日でも可能ですが、人数を把握するため、できるだけ事前にお申し込みください。

**【参加料振込先】**

**〔1〕郵便振替口座**

口座番号：00140-7-404275

口座名称：応用生態工学会

**〔2〕銀行振込口座**

銀行名：東京三菱銀行麹町中央支店

口座番号：(普通)1302920

〔口座名称〕応用生態工学会(オウヨウセイタイコウガクカイ)

**8. お問い合わせ先**

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL：03-5216-8401 FAX：03-5216-8520

E-mail：koriyama\_19th@ecesj.com

－ 会場へのアクセス・会場案内 －

【会場】

日本大学工学部キャンパス 70号館

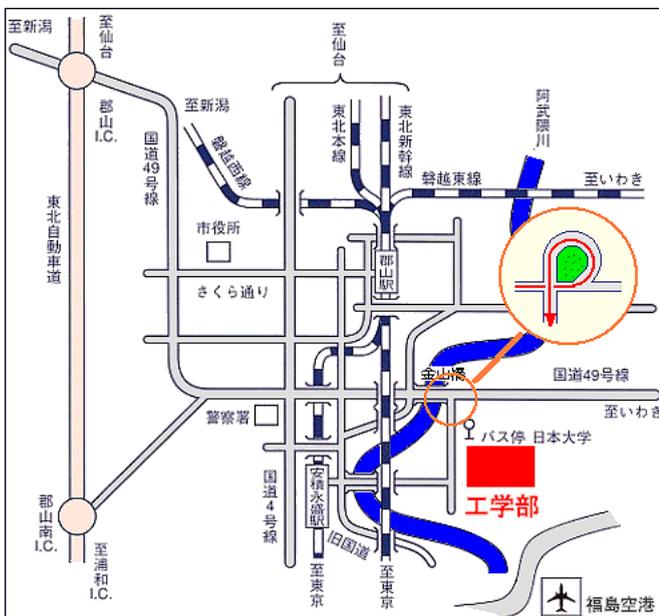
住所: 福島県郡山市田村町徳定字中河原1

電話: 024-956-8600 (代表)

URL: <http://www.ce.nihon-u.ac.jp/links/access.html>

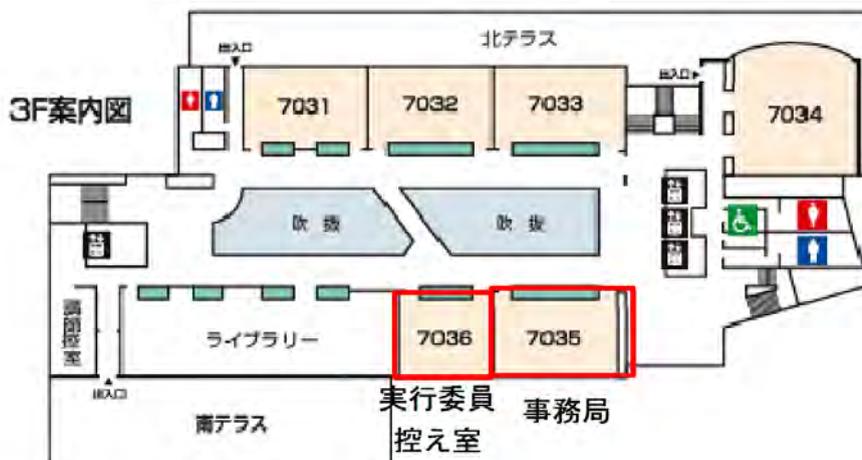
<交通>

- JR東北新幹線  
東京駅→郡山駅 (やまびこ号 80分)  
郡山駅 (3番ターミナル) →日本大学下車 (日大行バス 20分)
- JR東北本線  
郡山駅→安積永盛駅下車 (徒歩 15分)
- タクシー: 郡山駅前タクシー乗り場より 20分程度
- 福島空港: 車で約 30分



学内地図(黄色矢印の位置が70号館)

【日本大学工学部キャンパス 案内図】



－ プログラム・会場対応表 －

エクスカーション										事務局	
Aコース:三春ダム ※9:45JR郡山駅出発～13:15日大工学部着											
9月10日(木)	9:45	13:45								7035	7036
9月10日(木)	9:00	7012教室(1F)160名								7021教室(2F)75名	実行委員 控室
	9:30	自由集会	B.水質浄化技術		7014ホール(1F)164名			70号館1Fロビー			
	11:30	普及・連携委員会 (11:30～14:00)		会誌編集委員会 (11:30～13:30)			受付開始 ポスター・賛助会員 展示準備				
	12:45	屋食時間									
	14:15	自由集会		F.地質と河川生 態系			ポスターコアタイムA				
	16:00	会議	D.自然再生		自由集会			ポスターコアタイムB			
17:30	自由集会		G.気候変動			ポスター掲示 賛助会員展示		自由集会E 自然災害			
エクスカーション										事務局	
Bコース:茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月11日(金)	9:30	12:00	7013教室(1F)160名							7021教室(2F)75名	実行委員 控室
	A.河床環境評 価		C.河川敷植生		7014教室(1F)164名			70号館1Fロビー			
	口頭発表		口頭発表		E.保全対策			ポスター・掲示 賛助会員展示			
	口頭発表		口頭発表		F.遺伝子解析			ポスター掲示 賛助会員展示			
	自由集会		自由集会		G.気候変動						
	自由集会		H.多自然川づくり			ポスター掲示 賛助会員展示			ポスター・賛助会員 展示撤去		
懇親会(9F多目的ホール)											
エクスカーション										事務局	
Bコース:茶話会(いわき湯本温泉) ※17:00日大工学部出発											
9月12日(土)	9:00	10:30	7013教室(1F)160名							7021教室(2F)75名	実行委員 控室
	10:30	第19回総会		7014教室(1F)164名			70号館1Fロビー				
	11:30	発表賞表彰		第19回総会			発表賞表彰				
	12:00	屋食時間		発表賞表彰							
	12:00	屋食時間		屋食時間			公闘シンポジウム:「生態系機能 を活用した減災・防災・復興」				
	13:00	屋食時間		屋食時間							
エクスカーション										事務局	
Bコース:松川浦・仙台湾南部海岸 ※15:45仙台空港、16:30仙台駅到着											
9月13日(日)	10:00	15:15									

— 研究発表会プログラム —

**【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】**

「※」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告

口頭発表 9月11日(金) 2日目 9:30~15:00 [会場:7011教室(1F)]

**セッションA 河床環境評価**

- 9:30 OA-1 「石礫の輪郭形状からみた河床の生息場所環境と底生動物群集」:**「研」**  
田代喬<sup>※</sup>(名古屋大学)・岩田裕輝(同)・畔柳諒輔(同)・辻本哲郎(同)
- 9:45 OA-2 「水際部における物理指標の変化と河床材料の移動」:**「研」**  
竹内洋介<sup>※</sup>(東日本旅客鉄道(株)信濃川発電所業務改善事務所)・青木克憲(同)・柘本拓(同)
- 10:00 OA-3 「扇状地河川において河川内地形は砂礫性節足動物の分布を制限するか?」:**「研」**  
渡辺のぞみ<sup>※</sup>(北海道大学)・今井悠(同)・根岸淳二郎(同)・中村太士(同)
- 10:15 OA-4 「北海道十勝地方の森林流域における底生動物群集の縦断分布」:**「研」**  
布川雅典<sup>※</sup>(北海道大学)・渡辺のぞみ(同)・駒井克昭(北見工業大学)・長尾麻未(同)・中山恵介(同)
- 10:30 OA-5 「九州北部におけるイシガイ目二枚貝の分布とその生息環境」:**「事」**  
林博徳<sup>※</sup>(九州大学)・稲熊祐介(同)・大坪寛征(同)・島谷幸宏(同)
- 10:45 OA-6 「ガサガサで捕れる水生動物に基づく河川環境評価」:**「研」**  
竹門康弘<sup>※</sup>(京都大学)
- 11:00 OA-7 「矢作川における底生動物群集の多様性と攪乱—中規模攪乱仮説は当てはまるか?」:**「研」**  
内田臣一<sup>※</sup>(愛知工業大学)

**セッションB 河川管理**

- 11:15 OB-1 「扇状地の中小河川における部分拡幅工法の有効性」:**「研」**  
原田守啓<sup>※</sup>(岐阜大学)・高岡広樹(土木研究所)・大石哲也(同)・萱場祐一(同)
- 11:30 OB-2 「エネルギーの地産地消とグリーンインフラ—埼玉県での取り組みと将来展開の可能性—」:**「事」**  
藤野毅<sup>※</sup>(埼玉大学)・勝山佑司(同)・飯嶋光幸((株)高橋製作所)・田島克己(秩父樹液生産組合)
- 11:45 OB-3 「「バープ」による河岸の防御と魚類の生息環境の創出」:**「事」**  
渡辺恵三<sup>※</sup>((株)北海道技術コンサルタント)・岩瀬晴夫(同)・野村圭司(同)・小森友晴(北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部)・卜部浩一(北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場)・泉典洋(北海道大学)

12:00~13:00 — 休憩 —

セッションH ダム下流

- 13:00 OH-1 「長期データで見るダム下流への置土が付着藻類の現存量に及ぼす効果」:「研」  
宮川幸雄<sup>※</sup>(土木研究所)・角哲也(京都大学)・竹門康弘(同)・小林草平(同)・萱場祐一(土木研究所)
- 13:15 OH-2 「ダム上流下流における流水性・止水性 生息場の底生動物群集と栄養起源の比較研究」:「研」  
高橋真司<sup>※</sup>(東北大学)・竹門康弘(京都大学)・大村達夫(東北大学)・渡辺幸三(愛媛大学)
- 13:30 OH-3 「ダム下流における既存適性値の適用可能性」:「研」  
小野田幸生<sup>※</sup>(土木研究所)・高木哲也(応用地質(株))・高岡広樹(土木研究所)・崎谷和貴(同)・藤森琢(同)・萱場祐一(同)
- 13:45 OH-4 「土砂供給が魚類の生息に及ぼす影響について—実験河川における砂供給実験—」:「研」  
堀田大貴<sup>※</sup>(土木研究所)・小野田幸生(同)・萱場祐一(同)
- 14:00 OH-5 「京都・宇治川で大発生するトビケラの食物起源とその流程変化」:「研」  
小林草平<sup>※</sup>(京都大学)・加藤義和(総合地球環境学研究所)・竹門康弘(京都大学)
- 14:15 OH-6 「排砂バイパスを有するダム下流における河床環境と底生動物群集」:「研」  
粟津陽介<sup>※</sup>(京都大学)・小林草平(同)・角哲也(同)・竹門康弘(同)
- 14:30 OH-7 「砂礫性節足動物に対するフラッシュ放流の影響評価:群集構造と機能の短期的応答」:「研」  
今井悠<sup>※</sup>(北海道大学)・三浦一輝(同)・渡辺のぞみ(同)・根岸淳二郎(同)・中村太士(同)

口頭発表 9月11日(金) - 2日目 - 9:30~15:00 [会場:7012教室(1F)]

セッションC 河川敷植生

- 9:30 OC-1 「Does sediment play a significant role on delaying the encroachment of riparian vegetation?」:「研」  
Henegama Liyanage Kelum Sanjaya<sup>\*</sup>(埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)
- 9:45 OC-2 「河川域における樹林の拡大と地形の関係」:「研」  
宮脇成生<sup>\*</sup>((株)建設環境研究所)・西廣淳(東邦大学)
- 10:00 OC-3 「河道内植生域での粒状有機物の堆積過程とそのモデル化」:「研」  
尾花まき子<sup>\*</sup>(名古屋大学)・全浩成(韓国技術研究院)・辻本哲郎(名古屋大学)
- 10:15 OC-4 「河道内氾濫原における沈水植物群落の分布と成立条件」:「研」  
片桐浩司<sup>\*</sup>(土木研究所)・池田茂(同)・大石哲也(同)・萱場祐一(同)

セッションD 水生植物

- 10:30 OD-1 「Effects of water turbulence and mean flow on plant growth and ultra-structures of aquatic macrophyte; /Elodea nuttallii(大型水生植物の超微細構造と植物の生長への水流と平均流量の影響/コカナダモ)」:「研」  
Keerthi Sri Senarathna Atapaththu<sup>\*</sup>(埼玉大学)・Kimie Atsuzawa(同)・Yasuko Kaneko(同)・Takashi Asaeda(同)
- 10:45 OD-2 「Low oxygen induced oxidative stress to Chara australis R.Brown(シャジクモへの人為的な低酸素酸化ストレス)」:「研」  
Mahfuza Parveen<sup>\*</sup>(埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)・Md H. Rashid(同)
- 11:00 OD-3 「Effects of Shocked Heat Stress (SHS) on growth and Photosynthetic pigments of submerged Macrophyte; /Elodea nuttallii/(大型水生植物の光合成色素と成長への温度ストレスの影響/コカナダモ)」:「研」  
Hendadura Chandani Chalanika De Silva<sup>\*</sup>(埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)
- 11:15 OD-4 「Contribution of Arbuscular mycorrhiza to Pb tolerance of /Miscanthus sacchariflorus(樹枝状菌根の貢献による鉛耐性/オギ)」:「研」  
Animesh Sarkar<sup>\*</sup>(埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)・QingyueWang(同)・Yasuko Kaneko(同)・Md H. Rashid(同)
- 11:30 OD-5 「Pressure Induced Adverse Effects on Buoyancy Regulation of Fresh Water Cyanobacteria : Psudanabeana galeata and Microcystis aeruginosa」:「研」  
H.D.L.Abeynayaka<sup>\*</sup>(埼玉大学)・K.Tanaka(同)・K.Atsuzawa(同)・Y.Kaneko(同)・T.Asaeda(同)

11:45~13:00 — 休憩 —

セッションI 魚類生息環境

- 13:00 OI-1 「Applying ecosystem based transfer factor of radiocesium (137Cs) for white-spotted char in a headwater stream: A case study in Osawa-gawa of Fukushima(源流河川のアメマスにおける生態系を基盤とした放射性セシウムの適用:福島県大沢川の事例)」:  
「研」  
Md. Enamul Haque<sup>\*</sup>(東京農工大学)・五味高志(同)・境優(中央大学)
- 13:15 OI-2 「航空写真を用いたアユの生息場ポテンシャル評価」:  
「研」  
三島康二<sup>\*</sup>(京都大学)・竹門康弘(同)・角哲也(同)・小林草平(同)
- 13:30 OI-3 「音響ドップラー流速計を用いたアユ降下仔魚調査法」:  
「研」  
村岡敬子<sup>\*</sup>(土木研究所)
- 13:45 OI-4 「河川水辺の国勢調査とランダムフォレストを組み合わせた外来魚種予測モデルの提案」:  
「研」  
城山理沙<sup>\*</sup>(東京工業大学)・吉村千洋(同)
- 14:00 OI-5 「試験施工等に基づくアユ産卵環境の予測・評価手法の提案」:  
「研」  
福井洋幸<sup>\*</sup>((株)建設技術研究所)・北川照晃(同)・深草新(同)・大屋彩(同)・稲若孝治(中国地方整備局浜田河川国道事務所)・松尾至哲(同)
- 14:15 OI-6 「アミノ酸混和コンクリートによる付着藻類の生長特性の持続効果」:  
「研」  
川島大助<sup>\*</sup>(日建工学(株))・田中実(榎野川漁業協同組合)・西村博一(日建工学(株))・俵熊公子(同)・飯千富広(同)・福田鐘行(同)・青山大輔(同)・中西敬(同)
- 14:30 OI-7 「羽地ダム下流河川におけるリュウキュウアユについて」:  
「研」  
石水秀延<sup>\*</sup>(いであ(株))・鳥居高志(同)・根間秀昌(沖縄総合事務局北部ダム統合管理事務所)・備瀬知康(同)・立原一憲(琉球大学)
- 14:45 OI-8 「循環統計を用いた世界の主要河川での洪水・濁水発生時期と魚類種数の関係性の評価」:  
「研」  
山崎雅貴<sup>\*</sup>(東京工業大学)・梁政寛(同)・スイス連邦水科学技術研究所)・吉村千洋(東京工業大学)・城山理沙(同)

口頭発表 9月11日(金) ー2日目ー 9:30~15:00 [会場:7013教室(1F)]	
<b>セッションE 保全対策</b>	
9:30	OE-1 「那覇空港滑走路増設事業における希少海藻類(クビレミドロ)の移植技術とその効果」: 「事」 平中晴朗 <sup>*</sup> (いであ(株))・鳥居高志(同)・金城健吾(沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備 事務所)・大城直(同)
9:45	OE-2 「コウノトリ・トキの生息地再生活動に対する意識とエコロジカルマインド評価尺度の関係 分析-豊岡市、佐渡市、鴻巣市のアンケート調査-」: 「研」 川島秀男 <sup>*</sup> (埼玉大学)・深堀清隆(同)・浅枝隆(同)
10:00	OE-3 「兵庫県豊岡市の水田におけるトンボ類の生息状況ー農法による違いはあるのかー」: 「研」 丸山勇氣 <sup>*</sup> (兵庫県立大学)・佐川志朗(同)・田和康太(同)・内藤和明(同)
10:15	OE-4 「小石原川ダム周辺に生息するヤマネの巣箱利用と保全対策」: 「事」 村田裕 <sup>*</sup> (水資源機構)・中野春男(同)・大原基秀(同)・荒井秋晴(九州歯科大学)
10:30	OE-5 「減農薬と水田魚道によるサギ類への効果」: 「研」 夏原由博 <sup>*</sup> (名古屋大学)
<b>セッションF 遺伝子解析</b>	
10:45	OF-1 「Gene-environmental-wide association using Next-Generation RAD-Seq(次世代RAD シーケンシングによるゲノムワイド関連解析)」: 「研」 Maribet Gamboa <sup>*</sup> (愛媛大学)・渡辺幸三(同)
11:00	OF-2 「水生昆虫ヒゲナガカワトビケラの上下流集団間の遺伝的分化と交雑」: 「研」 八重樫咲子 <sup>*</sup> (愛媛大学)・Michael T. Monaghan(The Leibniz-Institute of Freshwater Ecology and Inland Fisheries)・大村達夫(東北大学)・渡辺幸三(愛媛大学)
<b>セッションG 気候変動</b>	
11:15	OG-1 「河川平衡水温の経年変化に関する日本地図」: 「研」 宮本仁志 <sup>*</sup> (芝浦工業大学)・片桐弘晴(同)
11:30	OG-2 「水文モデルを用いた気候変動下の水生昆虫の適応的遺伝変動予測」: 「研」 糠澤桂 <sup>*</sup> (東北大学)・風間聡(東北大学)・渡辺幸三(愛媛大学)
11:45~13:00 ー休憩ー	

セッションJ 河口域干潟・干潟

- 13:00 OJ-1 「宍道湖におけるヤマトシジミ漁獲量と水質」:「研」  
山室真澄<sup>\*</sup>(東京大学)・神谷宏(同)
- 13:15 OJ-2 「Using remote sensing data for modeling mangrove propagule dispersal in Olango island, Cebu, Philippines. (リモートセンシングデータを使用したフィリピンセブ島オランゴ環礁のマングローブ胎生種子の散布モデル)」:「研」  
Dang Truong Giang<sup>\*</sup>(埼玉大学)・Takashi Asaeda(同)
- 13:30 OJ-3 「九州北部の河川を対象とした汽水性貝類による河口域の生息環境評価」:「研」  
巖島怜<sup>\*</sup>(九州大学)・森田海(同)・島谷幸宏(同)
- 13:45 OJ-4 「マングローブ胎生種子の形状や浮遊特性に基づく輸送モデル」:「研」  
古里栄一<sup>\*</sup>(埼玉大学)・T. Priyadarshana(ルブナ大学)・G.A.H.S. Chathuranga(ワヤンバ大学)
- 14:00 OJ-5 「霞ヶ浦における粒子状物質の動態について」:「研」  
篠原隆一郎<sup>\*</sup>(国立環境研究所)・今井章雄(同)・霜鳥孝一(同)・高津文人(同)・佐藤貴之(同)・小松一弘(同)・富岡典子(同)・三浦真吾((株)武揚堂)
- 14:15 OJ-6 「ハゼ類を指標にした河川汽水域の健全性評価とハビタットの劣化を引き起こす要因の解明」:「研」  
乾隆帝<sup>\*</sup>(山口大学)・竹村紫苑(総合地球環境学研究所)・赤松良久(山口大学)・鎌田磨人(徳島大学)

**【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】**

「※」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告

ポスター発表 9月10日(木) -1日目- 12:45~15:45 [会場:70号館1Fロビー]	
12:45~14:15	コアタイムA(セッション末尾奇数番)
14:15~15:45	コアタイムB(セッション末尾偶数番)
<b>セッションA 流域・地質</b>	
PA-1	<b>流域地質の影響はどこまで及ぶのか? -魚類の流程分布を糸口に-</b> :「研」 澤海人 <sup>※</sup> (九州大学)・川本朋慶(同)・鬼倉徳雄(同)
PA-2	<b>地質の異なる菊池川支流間での河床間隙生物の群集構成比較</b> :「研」 田中亜季 <sup>※</sup> (熊本大学)・笠原玉青(九州大学)・佐藤辰郎(同)・一柳英隆(熊本大学)・皆川朋子(同)
PA-3	<b>九州中北部における流域地質と山地溪流の河床形態の関係</b> :「研」 西田健人 <sup>※</sup> (九州大学)・佐藤辰郎(同)・島谷幸宏(同)
<b>セッションB 物質循環</b>	
PB-1	<b>北海道十勝地方の森林流域における溶存有機物と栄養物質の動態解析</b> :「研」 長尾麻未 <sup>※</sup> (北見工業大学)・駒井克昭(同)・中山恵介(同)・布川雅典(北海道大学)・渡辺のぞみ(同)
PB-2	<b>農林地由来の栄養物質と溶存有機物の流出特性解析</b> :「研」 笠間基 <sup>※</sup> (北見工業大学)・布川雅典(北海道大学)・駒井克昭(北見工業大学)・中下慎也(広島大学)・長尾麻未(北見工業大学)・中山恵介(同)
<b>セッションC ダム・ダム下流</b>	
PC-1	<b>ダム上下流の生物群集および土砂移動からみた布目川における土砂還元の効果</b> :「研」 堀江将徳 <sup>※</sup> (近畿大学)・片岡寛敬(同)・河内香織(同)
PC-2	<b>ダムから流出したヘドロが魚類の酸素消費速度に与える影響</b> :「研」 片岡寛敬 <sup>※</sup> (近畿大学)・光永靖(同)・鳥澤真介(同)・河内香織(同)
PC-3	<b>ダムとオショロコマの生息環境の関係性</b> :「研」 斎藤壮央 <sup>※</sup> (徳島大学)・竹川有哉(同)・河口洋一(同)・谷口義則(名城大学)・山城明日香(徳島大学)
PC-4	<b>ダム湖が及ぼす流程方向における物質循環の変化</b> :「研」 神崎東子 <sup>※</sup> (京都大学・弘前大学)・田村和也(弘前大学)・工藤誠也(岩手大学)・佐藤臨(同)・井上博元(同)・野田香織(弘前大学)・池田紘士(同)・中下留美子(森林総合研究所)・渡邊泉(東京農工大学)・東信行(弘前大学)

セッションD 河口域・干潟

- PD-1 **UAV-SfMおよびADCPを用いた干潟地形の高精度観測:「研」**  
 伊豫岡宏樹<sup>\*</sup>(福岡大学)・田井明(九州大学)・池畑義人(日本文理大学)・鶴崎賢一(群馬大学)・齋田倫範(鹿児島大学)・清野聡子(九州大学)
- PD-2 **河川水辺の国勢調査を用いた全国の河川汽水域の底生動物の出現状況と選好する地盤高の関係性:「研」**  
 前田義志<sup>\*</sup>(国土技術政策総合研究所)・中村圭吾(同)・鈴木宏幸(同)・甲斐崇(同)・服部敦(同)
- PD-3 **「河川水辺の国勢調査」による河川汽水域の生物多様性の地理的分布評価の試み-底生生物の主要4分類群の基準化種数を用いて-:「研」**  
 中村圭吾<sup>\*</sup>(国土技術政策総合研究所)・前田義志(同)・甲斐崇(同)・鈴木宏幸(同)・服部敦(同)
- PD-4 **ヤマトシジミの個体群動態と炭素固定機能:「研」**  
 野元あい<sup>\*</sup>(大阪府立大学工業高等専門学校)・大谷壮介(同)
- PD-5 **鳥類の飛来数データを用いた全国の河口域環境の類型化:「研」**  
 田辺篤志<sup>\*</sup>(熊本大学)・皆川朋子(同)
- PD-6 **七里長浜港建設後の砂浜海岸における生物組成の遷移について:「事」**  
 佐藤高広<sup>\*</sup>((株)復建技術コンサルタント)・山本和司(同)・藤原悠太(同)・東信行(弘前大学)・川村昌弘(青森県西北地域県民局)
- PD-7 **津屋原沼における潮間帯生物生息場評価とこれを活かした防潮堤水際域の提案:「研」**  
 秋山秀樹<sup>\*</sup>(熊本大学)・皆川朋子(同)・田辺篤志(同)・増山晃大(同)・坂本誠吾(九州地方整備局宮崎河川国道事務所)・一柳貴紅子(パシフィックコンサルタンツ(株))
- PD-8 **河口ヨシ帯におけるCO2フラックスの季節変化:「研」**  
 鞠川純平<sup>\*</sup>(大阪府立大学工業高等専門学校)・川崎太輝(大阪市立大学)・大谷壮介(大阪府立大学工業高等専門学校)
- PD-9 **河口干潟における腹足類の炭素埋没量に関する研究:「研」**  
 大谷壮介<sup>\*</sup>(大阪府立大学工業高等専門学校)・石田達憲((株)エコー建設コンサルタント)・山中亮一(徳島大学)・上月康則(同)
- PD-10 **仙台湾東谷地干潟の生産分布:簡易閉鎖チャンバーを用いた解析:「研」**  
 尾崎隼斗<sup>\*</sup>(東北大学)・柚原剛(同)・鈴木孝男(同)・占部城太郎(同)
- PD-11 **沖縄本島億首川マングローブ林における更新立地の特性:「研」**  
 今井洋太<sup>\*</sup>(徳島大学)・竹村紫苑(総合地球環境学研究所)・鎌田磨人(徳島大学)
- PD-12 **沖縄本島億首川マングローブ林におけるモニタリングシステム構築に向けたカニ類の分布特性の把握:「研」**  
 竹村紫苑<sup>\*</sup>(総合地球環境学研究所)・乾隆帝(山口大学)・小山彰彦(九州大学)・和田恵次(奈良女子大学)・鎌田磨人(徳島大学)

**セッションE 湿地・水田・氾濫原**

- PE-1 **レーザ式変位センサを用いた「ボグの呼吸」の観測とそのモデル化:「研」**  
 山田浩之<sup>※</sup>(北海道大学)・矢部和夫(札幌市立大学)
- PE-2 **コンクリート三面張り水路における微小な形状変化がイシガイ目二枚貝の生息に与える影響:「研」**  
 大坪寛征<sup>※</sup>(九州大学)・林博徳(同)・島谷幸宏(同)
- PE-3 **湿地再生の可能性評価に向けた東京都内の散布体バンクの把握:「事」**  
 白土智子<sup>※</sup>(東邦大学)・林紀男(千葉県中央博物館)・山ノ内崇志(東邦大学)・西廣淳(同)
- PE-4 **深泥池におけるトンボ幼生群集:構造決定におけるニッチフィルターと分散フィルターの役割:「研」**  
 山田紗友美<sup>※</sup>(東北大学)・加藤義和(京都大学)・辻野亮(奈良教育大学)・竹門康弘(京都大学)・占部城太郎(東北大学)
- PE-5 **菊池川流域における河道の変化と河道内氾濫原水域の氾濫原依存種の生息場としての機能評価～氾濫原環境再生にむけた基礎研究～:「研」**  
 岡村麻矢<sup>※</sup>(熊本大学)・上杉幸輔(同)・皆川朋子(同)
- PE-6 **湿地再生の可能性評価に向けた印旛沼低地排水路および休耕田における水生生物の分布の把握:「研」**  
 富田和宏<sup>※</sup>(信州大学)・山ノ内崇志(東邦大学)・西廣淳(同)
- PE-7 **氾濫原湿地における陸生動物の出水時の垂直レフュージア:「研」**  
 富山雄太<sup>※</sup>(九州大学)・林博徳(同)・島谷幸宏(同)

セッションF 河川環境評価

- PF-1 **長期流量データ解析による国内河川の攪乱レジームの評価:「研」**  
吉村研人<sup>\*</sup>(愛媛大学)・赤坂卓美(帯広畜産大学)・三宅洋(愛媛大学)
- PF-2 **大和川の直線区間およびワンド区間における平水時の水理特性と生物の対応:「研」**  
矢野貴史<sup>\*</sup>(近畿大学)・片岡寛敬(同)・赤尾大樹(同)・河内香織(同)
- PF-3 **河川整備計画における景観記述を通じた今後の河川景観マネジメントの課題整理:「研」**  
鶴田舞<sup>\*</sup>(土木研究所)・萱場祐一(同)
- PF-4 **河川の落葉堆積によるカエルの越冬地提供とカエルの河川定着プロセス:「研」**  
三浦一輝<sup>\*</sup>(北海道大学)・渡辺のぞみ(同)・根岸淳二郎(同)
- PF-5 **日本全国一級河川における河床の経時変化及び変化要因の探索:「研」**  
尹衍棟<sup>\*</sup>(北海道大学)・根岸淳二郎(同)・中西哲(土木研究所)・永山滋也(同)・萱場祐一(同)
- PF-6 **手取川におけるヤナギ類実生の生育実態と生育立地の予測の検討:「研」**  
今村史子<sup>\*</sup>(日本工営(株))・徳江義宏(同)・宇野哲平(同)・石尾将大(同)・高橋至(北陸地方整備局金沢河川国道事務所)
- PF-7 **佐波川における河川生態系モデルの開発:「研」**  
河野誉仁<sup>\*</sup>(山口大学)・赤松良久(同)・永野博之(東京理科大学)・乾隆帝(山口大学)
- PF-8 **石礫床河川における効率的な河床環境調査手法の試行:「研」**  
原田守啓<sup>\*</sup>(岐阜大学)・荒川貴都(同)・天野裕行(同)・大橋一弘(同)
- PF-9 **溪流地形における表流水の一時的伏流と河川間隙水域の環境の変動:「研」**  
笠原玉青<sup>\*</sup>(九州大学)・Sun Haotian(同)
- PF-10 **複列砂州を内包する河原の成因と生態系基盤としてのその機能:「研」**  
原田大輔<sup>\*</sup>(東京大学)・知花武佳(同)
- PF-11 **アユの産卵数の多い琵琶湖流入河川における河口地形の特徴:「事」**  
東善広<sup>\*</sup>(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・水野敏明(同)
- PF-12 **佐波川における底生動物量の空間分布予測モデル～流れ場の環境変動に伴う生態系の変化が予測可能なモデルの構築を目指して～:「研」**  
一松晃弘<sup>\*</sup>(山口大学)・赤松良久(同)・乾隆帝(同)
- PF-13 **石川県能登半島における絶滅危惧種カワヤツメ幼生の微生息場:「事」**  
荒川裕亮<sup>\*</sup>(石川県立大学)・柳井清治(同)
- PF-14 **河川水辺の国勢調査データを用いた生息適地モデルによる河道掘削の評価:「事」**  
川口究<sup>\*</sup>(いであ(株))・中原良一(同)・石垣宏(同)・白井耕平(九州地方整備局遠賀川河川事務所)
- PF-15 **矢作川中流部におけるヒゲナガカワトビケラとオオシマトビケラの生活史:「研」**  
岡田和也<sup>\*</sup>(愛知工業大学)・内田臣一(同)
- PF-16 **矢作川水系におけるカワゲラ類水生昆虫の分布と河川環境:「研」**  
藤本卓也<sup>\*</sup>(愛知工業大学)・内田臣一(同)
- PF-17 **市民に向けた河川生態の情報発信手法について～展示・模型を活用した河川で見られる現象の視覚化～:「事」**  
真田誠至<sup>\*</sup>(世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ)
- PF-18 **自然共生研究センターのエントランス展示における情報整理と展示表現**  
渡辺友美<sup>\*</sup>(早稲田大学)・萱場祐一(土木研究所)

**セッションG 環境影響評価**

- PG-1 **サケ科魚類オシロコマに対するダム設置による水温上昇の影響を熱ショックタンパク質(Hsp)で評価する:「研」**  
 倉橋彩百合<sup>※</sup>(新潟大学)・鎌田泰斗(同)・関島恒夫(同)・竹川有哉(徳島大学)・谷口義則(名城大学)・河口洋一(徳島大学)
- PG-2 **ネコギギのハビタットモデルを用いた河川環境改善工法の開発と効果:「研」**  
 八神鉄彦<sup>※</sup>(水源地環境センター)・大杉奉功(同)・高橋正信(中部地方整備局設楽ダム工事事務所)・松浦直(同)
- PG-3 **小水力発電に伴う山地溪流ハビタットの变化と底生動物への影響ー福岡県川付川の事例ー:「研」**  
 大山璃久<sup>※</sup>(中部地方整備局木曾川下流事務所)・佐藤辰郎(九州大学)・一柳英隆(水源地環境センター)・島谷幸宏(九州大学)
- PG-4 **希少猛禽類に対する代替巢設置手法と繁殖利用状況:全国の道路事業の事例分析:「事」**  
 長谷川啓一<sup>※</sup>(国土技術政策総合研究所)・上野裕介(同)・大城温(同)・井上隆司(同)
- PG-5 **環境影響評価における蝙蝠の調査方法に関する考察:「事」**  
 見上伸<sup>※</sup>((株)日立パワーソリューションズ)・高橋雅也(同)・福井聡(日本気象協会)・和田伸久(同)・魚崎耕平(同)・戸谷充雅(くろしお風力発電(株))

**セッションH 自然再生**

- PH-1 **兵庫県北部円山川におけるコウノトリの河川内周年利用:「研」**  
 佐川志朗<sup>※</sup>(兵庫県立大学)・田和康太(同)・大迫義人(同)
- PH-2 **できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生:「事」**  
 後藤勝洋<sup>※</sup>(リバーフロント研究所)・和田彰((株)建設技術研究所)・三橋弘宗(兵庫県立大学)・原田守啓(岐阜大学)・林博徳(九州大学)
- PH-3 **津波を受けた仙台湾南部海岸における植生の自律的再生と人為的改変:「研」**  
 西廣淳<sup>※</sup>(東邦大学)・南蒲生砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワーク
- PH-4 **印旛沼の水草再生に向けて～発芽に対するヘドロの影響～:「研」**  
 館野太一<sup>※</sup>(東邦大学)・林紀男(千葉県立中央博物館)・山ノ内崇志(東邦大学)・西廣淳(同)
- PH-5 **小河川のホットスポットが上下流の水生生物相に与える影響:「研」**  
 上國料昌哲<sup>※</sup>(九州大学)・林博徳(同)・富山雄太(同)・島谷幸宏(同)
- PH-6 **上西郷川の自然再生事業に導入された情報共有ツールの役割:「事」**  
 吉富友恭<sup>※</sup>(東京学芸大学)・龍舞子(同)・林博徳(九州大学)

**セッションI 水質浄化**

- PI-1 **花壇を利用した自然浄化システムの開発:「研」**  
 大附遼太郎<sup>※</sup>(日本大学)・中村和徳(同)・中野和典(同)
- PI-2 **生態系機能を活かして水族園の水を浄化する実証実験:「事」**  
 松下太郎<sup>※</sup>((株)ウエスコ)・渡辺敏(同)

**セッションJ 種の多様性**

- PJ-1 **生物情報不要の河川生息場評価ソフトウェア DHABSIM:「研」**  
 関根雅彦<sup>\*</sup>(山口大学)・田部崇博(八千代エンジニアリング(株))
- PJ-2 **残存する草原の種多様性に対する過去の土地利用の影響～千葉県北部での検討～:「研」**  
 野田顕<sup>\*</sup>(東邦大学)・小林翔((株)水辺環境研究所)・山ノ内崇志(東邦大学)・近藤昭彦(千葉大学)・西廣淳(東邦大学)
- PJ-3 **野生絶滅前のコウノトリはどのような食性を示すのか?—炭素・窒素安定同位体比解析による検討—:「研」**  
 田和康太<sup>\*</sup>(兵庫県立大学)・佐川志朗(同)・三橋陽子(兵庫県立コウノトリの郷公園)
- PJ-4 **河川上流域の水生昆虫群集における現存量, 個体数密度, 種の豊富さと生物モニタリング指標の検討:「研」**  
 与世田信忠<sup>\*</sup>(大阪府立大学)・谷田一三(大阪市立自然史博物館)・平井規央(大阪府立大学)・石井実(同)

**セッションK 外来種**

- PK-1 **矢作川における外来水生植物オオカナダモ(*Egeria densa*)と流速、水深、底質との関係:「研」**  
 内田朝子<sup>\*</sup>(豊田市矢作川研究所)・白金晶子(同)・角野康郎(神戸大学)
- PK-2 **河川における農地・草地利用と外来植物群落の関係性～利根川下流域における検討～:「研」**  
 望月通人<sup>\*</sup>(東邦大学、(株)ブレック研究所)・宮脇成生((株)建設環境研究所)・萱場祐一(土木研究所)・西廣淳(東邦大学)
- PK-3 **特定外来生物ヒガタアシ(スパルティナ・アルテルニフロラ)の効果的な防除に向けた分布拡大モデルの作成:「研」**  
 花井隆晃<sup>\*</sup>((株)テクノ中部)・秋江佳弘(名古屋工業大学)・増田理子(同)
- PK-4 **伊豆沼・内沼における電気ショッカーボートを用いたオオクチバスの駆除と空間分布の把握:「研」**  
 森晃<sup>\*</sup>(宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)・藤本泰文(同)・芦澤淳(同)・嶋田哲郎(同)

**セッションL 遺伝子解析**

- PL-1 **塩基配列コピー数平準化法によるメタゲノムを用いた種多様性評価の改善:「研」**  
 福田航平<sup>\*</sup>(愛媛大学)・加藤幹男(大阪府立大学)・八重樫咲子(愛媛大学)・渡辺幸三(同)
- PL-2 **次世代シーケンシングとDNA種分類法を用いた河川底生動物群集の種多様性評価:「研」**  
 泉昂佑<sup>\*</sup>(愛媛大学)・Maribet Gamboa(同)・三宅洋(同)・渡辺幸三(同)
- PL-3 **マイクロサテライトマーカーを用いたマニラの Deng 熱媒介蚊の遺伝子流動の評価:「研」**  
 大岸航平<sup>\*</sup>(愛媛大学)・Thaddeus M. Carvajal(De La Salle University)・八重樫咲子(愛媛大学)・渡辺幸三(同)
- PL-4 **イタリアアルプス自然河川のトビケラ群集のDNA種分類法を用いた種多様性の解明:「研」**  
 近藤俊介<sup>\*</sup>(愛媛大学)・八重樫咲子(同)・Michael T. Monaghan(ライプニッツ淡水生態学・内水漁業研究所)・竹門康弘(京都大学)・渡辺幸三(愛媛大学)
- PL-5 **リアルタイムPCRによるSNP解析を用いたオイカワ国内外来系統の判別:「研」**  
 北西滋<sup>\*</sup>(岐阜大学)・清水孝昭(愛媛県農林水産研究所水産研究センター)・向井貴彦(岐阜大学)
- PL-6 **遺伝情報を活用した河川事業に関する評価法の研究:「研」**  
 増本育子<sup>\*</sup>(中電技術コンサルタント(株))・山原康嗣(同)・安形仁宏((株)建設技術研究所)・太田宗宏(同)・村岡敬子(土木研究所)

**セッションM 気候変動**

- PM-1 **水生昆虫カワゲラ群集のトランスクリプトーム解析に基づく日本の気候勾配に適応的な遺伝子の検索分析:「研」**  
 後藤友亮<sup>\*</sup>(愛媛大学)・Maribet Gamboa(同)・渡辺幸三(同)
- PM-2 **プロテオーム解析による日本の気候勾配に沿ったカワゲラ個体群の環境適応の解明:「研」**  
 山野俊介<sup>\*</sup>(愛媛大学)・Maribet Gamboa(同)・渡辺幸三(同)

## 応用生態工学会 第19回郡山大会 開催案内

開催日時 平成27年9月10日(木)～9月13日(日)

日程 9月10日(木) エクスカーションA【三春ダムコース】(午前)  
 研究発表会 ポスター発表, 自由集会  
 9月11日(金) 研究発表会 口頭発表, 自由集会, 懇親会  
 9月12日(土) 総会(午前), 公開シンポジウム(午後)  
 9月13日(日) エクスカーションB【相馬松川浦・仙台湾南部海岸コース】  
 会場 日本大学工学部 70号館(福島県郡山市)

本大会は、土木学会継続教育(CPD)プログラム認定に申請予定です。

●申し込み及び問合せ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5

麹町ロイヤルビル 405号

TEL: 03-5216-8401 FAX: 03-5216-8520

E-mail: koriyama\_19th@ecesj.com

【大会実行委員長: 占部城太郎(東北大学教授)】

### 参加申し込み(研究発表会・総会・エクスカーション)

参加申込書(裏面)に必要事項を記入の上、右記へファックスしてください。URLの申し込みフォームでも受け付けます。

詳細は裏面をご参照ください。

### 公開シンポジウム「生態系機能を活用した減災/防災/復興」

<日時>平成27年9月12日(土曜日) 13:00～16:30

<場所>日本大学工学部 70号館 7014(大ホール)

公開シンポジウム  
 参加費: 無料  
 同時通訳あり

<開催主旨>

復興・防災・減災事業では、地域の自然環境・生態系ネットワークを適正に保全・管理する必要があり、それを実現する手段として、近年、多様な生態系を重要な社会基盤とみなすグリーンインフラストラクチャー(GI)の考え方に注目が集まっている。しかし、GIに関しては、防災・減災機能に関する技術的評価や維持管理、ガバナンスのあり方も含めて、課題や有効性について議論を深める必要がある。そこで、本シンポジウムでは、第一線の研究者を一同に集め、最新の技術的知見や研究課題を共有し、土木技術と生態学の融合をめざす応用生態工学との接点を明らかにするとともに、課題解決に向けた方向性について議論を行い、今後の研究の進展と実事業への適用の出発点となることを目指します。

<プログラム>

13:00 開会 趣旨説明 風間 聡 教授(東北大学大学院工学研究科)

13:10 招待講演(同時通訳あり)

講演1 Kateryna M. Wowk 博士

米国海洋大気庁(NOAA)

主席エコノミスト室上席社会科学官

講演2 島谷幸宏 教授(九州大学大学院工学研究院)

15:30 パネルディスカッション

コーディネーター: 風間 聡 教授(東北大学大学院工学研究科)

パネリスト: Kateryna M. Wowk 博士

島谷幸宏 教授(九州大学大学院工学研究院)

古田 尚也(国際自然保護連合 シニア・プロジェクト・オフィサー)

諏訪 義雄(国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部海岸研究室長)

16:45 終了予定

(写真は井土浦干潟)



Our Life, with River

河川整備基金

公益財団法人河川財団による

河川整備基金の助成を受けています

一般社団法人東北地域づくり協会の「みちのく国づくり支援事業」として支援を受けています。

協賛: (一社)東北地域づくり協会

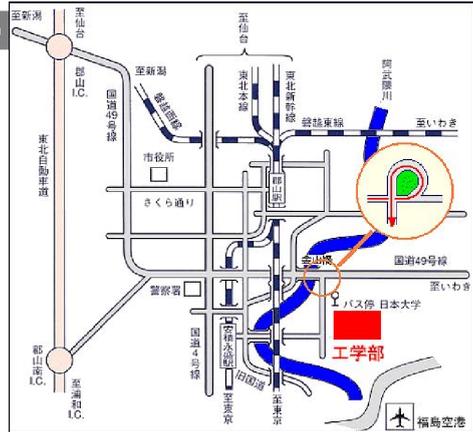
後援: 国土交通省東北地方整備局, 環境省東北地方環境事務所, 福島県, 郡山市, (公財)河川財団,

(公社)土木学会東北支部, (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部, 東北環境アセスメント協会

**会場と交通 (研究発表会・懇親会・公開シンポジウム)**

**日本大学工学部キャンパス 70号館**  
 〒963-8642 福島県郡山市田村町徳定字中川原1  
 Tel 024-956-8600 (代表)  
<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/links/access.html>

- JR東北新幹線  
 東京駅→郡山駅 (やまびこ号 80分)  
 郡山駅→日本大学下車 (日大行バス 20分)
- JR東北本線  
 郡山駅→日本大学下車 (日大行バス 20分)  
 安積永盛駅下車 (徒歩 15分)
- 福島空港：車で約 30分



**参加費 (研究発表会・懇親会・エクスカージョン)**

**【研究発表会】** 会員:6,000円、非会員:10,000円、学生(学生会員・非会員)3,000円  
 参加費には発表講演集代が含まれております。発表講演集のみ希望の方は、3,000円で販売しております。  
 ※平日は学食が営業していますが、土曜日は営業していませんので、別途1,000円でお弁当の用意ができます。  
 参加申込みと同時に申し込みください(周辺にはコンビニエンスストアはありません)。

**【エクスカージョン】**(詳細はHPに掲載)

- ① Aコース(三春ダム):定員20名先着順  
 正会員・賛助会員:2,000円,非会員:3,000円,学生(学生会員・非会員):1,500円・・・(昼食代1300円を含む)。
- ② Bコース(松川浦・仙台湾南部海岸):定員50名先着順  
 正会員・賛助会員:4,500円,非会員:6,500円,学生(学生会員・非会員):4,500円・・・(昼食代1000円を含む)。  
 ※別途宿泊費(1泊2食付)12,000円を各自でお支払いください。

**【懇親会】** 正会員・賛助会員・非会員:5,000円, 学生(3,000円)  
 ※当日の参加も可能ですが、人数を把握するためできるだけ事前にお申し込みください。

**参加費振込先 (研究発表会・懇親会・エクスカージョン)**

郵便振替口座

口座番号:00140-7-04275  
 口座名称:応用生態工学会

銀行振込口座

銀行名:東京三菱銀行麹町中央支店  
 口座番号:(普通)1302920  
 口座名称:応用生態工学会(オウヨウセイタイコウガクカイ)

**参加申込書 (研究発表会・懇親会・エクスカージョン)**

申込締切り:2015年8月25日(火)迄  
 振込締切り:2015年9月1日(火)迄

[http://www.ecesj.com//contents/event/conference/19th/19th\\_1st\\_callforpaper.html](http://www.ecesj.com//contents/event/conference/19th/19th_1st_callforpaper.html)

FAX:03-5216-8520 E-mail:koriyama\_19th@ecesj.com ※E-mailの場合はPDF等で送付願います。

(ふりがな) 氏名			会員No.(正・学生・賛助)	
所属				
連絡先 (自宅・所属) いずれかに○	〒 住所	e-mail:		
	参加申込		参加費(必要箇所)に✓	
研究発表会 (発表講演集代込)	9月10日(木)~11日(金)	参加・不参加	<input type="checkbox"/> 会員(6,000円) <input type="checkbox"/> 非会員(10,000円) <input type="checkbox"/> 学生会員(3,000円)	
懇親会	9月11日(金)	参加・不参加	<input type="checkbox"/> 会員・非会員(5,000円) <input type="checkbox"/> 学生(3,000円)	
エクスカージョン	Aコース:三春ダム(10日)	参加・不参加	<input type="checkbox"/> 会員(2,000円) <input type="checkbox"/> 非会員(3,000円) <input type="checkbox"/> 学生(1,500円) 昼食代(1,300円)含む	
	Bコース:松川浦・仙台湾南部 (12日~13日)	参加・不参加	<input type="checkbox"/> 会員(4,500円) <input type="checkbox"/> 非会員(6,500円) <input type="checkbox"/> 学生会員(4,500円) 昼食代(1,000円)含む。別途宿泊費(1泊2食)12,000円を徴収します。	
屋食の注文	9月10日(木)分	必要・不要	<input type="checkbox"/> 必要(1,000円)	10日~11日は学食が営業(11:30~13:30)しています。会場周辺には飲食店ははありません。コンビニエンスストアのみです。
	9月11日(金)分	必要・不要	<input type="checkbox"/> 必要(1,000円)	
	9月12日(土)分	必要・不要	<input type="checkbox"/> 必要(1,000円)	
研究発表会に参加しないが、発表講演集のみ希望 (研究発表会に参加される方は研究発表会参加費に発表講演集代が含まれています。)			3,000円(送料込) × 部	
参加費の合計			合計	円
連絡事項	請求書を希望する場合は「請求書希望」と記載してください。			

## 4 次期役員募集・推薦委員会報告

次期役員募集・推薦委員会

委員長：谷田一三会長

委員：山岸 哲元会長

近藤 徹前会長

本年度は役員改選年であり、本年6月1日から6月30日までの期間で、次期役員候補の募集を行いました。この結果、募集期間内に会長候補1名、副会長候補3名、理事候補13名、監事候補2名の計19名の届け出がありました。

これを受けて、7月6日に第2回次期役員募集・推薦委員会を開催し、届け出のあった19名全員を候補に推薦することを決定しました。また、理事候補については、候補者が定員に満たなかったことから、7月29日に第3回委員会をメール会議にて開催して候補者2名を推薦し、合計21名の役員候補を推薦しましたのでご報告します。

+++++

〔次期会長候補：1名〕(敬称略)

辻本 哲郎 (新任) 名古屋大学名誉教授

〔次期副会長候補：3名〕(再任・新任の順、五十音順、敬称略)

虫明 功臣 (再任) 東京大学名誉教授

江崎 保男 (新任) 兵庫県立大学大学院教授

國井 秀伸 (新任) 島根大学汽水域研究センター教授

〔次期理事候補：15名〕(再任・新任の順、五十音順、敬称略)

甲村 謙友 (再任) 独立行政法人水資源機構理事長

島崎 由美 (再任) いであ株式会社内部統制本部本部長代理

清水 義彦 (再任) 群馬大学教授

角 哲也 (再任) 京都大学防災研究所教授

関 克己 (再任) 公益財団法人河川財団理事長

関島 恒夫 (再任) 新潟大学大学院准教授

成田 賢 (再任) 応用地質株式会社代表取締役社長

風呂田利夫 (再任) 東邦大学名誉教授

渡辺 綱男 (再任) 一般財団法人自然環境研究センター上級研究員

渡邊 康玄 (再任) 北見工業大学教授

大森 浩二 (新任) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター准教授

萱場 祐一 (新任) 国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム上席研究員

木内 啓 (新任) 株式会社建設技術研究所東京本社副本社長

森北 佳昭 (新任) 一般財団法人水源地環境センター理事長

山室 真澄 (新任) 東京大学大学院教授

〔次期監事候補：2名〕(再任・新任の順、五十音順、敬称略)

西 浩司 (再任) いであ株式会社国土環境研究所生物多様性計画部部長

久保田 勝 (新任) 東北電力株式会社顧問